窒素・酸素分子を含む空気プラズマ流の 衝突輻射(CR)非平衡計算

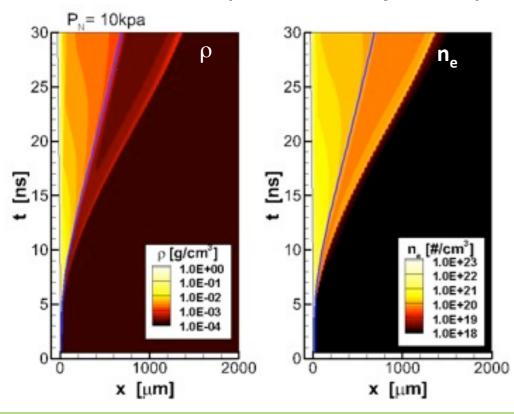
荻野 要介, 大西 直文 東北大学大学院 工学研究科 航空宇宙工学専攻

レーザープラズマ科学のための 最先端シミュレーションコードの共同開発・共用に関する研究会 平成29年1月10日 大阪大学レーザーエネルギー学研究センター

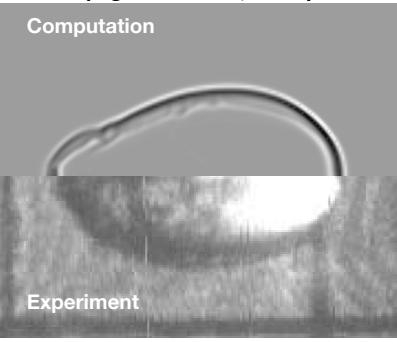
研究背景

- ☆ 主な解析対象
 - 大気圏突入機まわりの極超音速流れ
 - ビーム生成プラズマを利用した推進技術
 - アーク放電やストリーマ放電
- ☆ 短時間に変動する高温・低密度なプラズマ内部の非平衡性
- ☆ 内部励起分布の非平衡性を詳細に考慮した解析コード開発

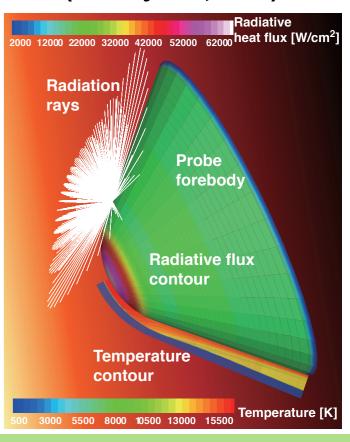
Laser ablation (Johzaki & Naya, 2014)



Laser blast (Ogino & Mori, 2012)



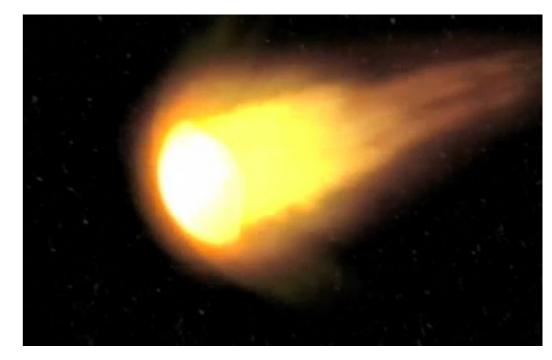
Jovian atmospheric entry (Matsuyama, 2003)



大気圏突入機の熱防御

- ☆ 極超音速で大気圏へ突入
 - 過酷な空力加熱のため,熱防御設計が重要
- ☆ 熱防御材の重量割合
 - はやぶさ:約50%
 - MPCV(有人カプセル):約15%
- ☆ MPCVで5%の加熱率予測誤差は50kgの ペイロードに相当

☆ 過剰な熱防御材を適切に削減するために、
正確な加熱率予測手法の開発が望まれている

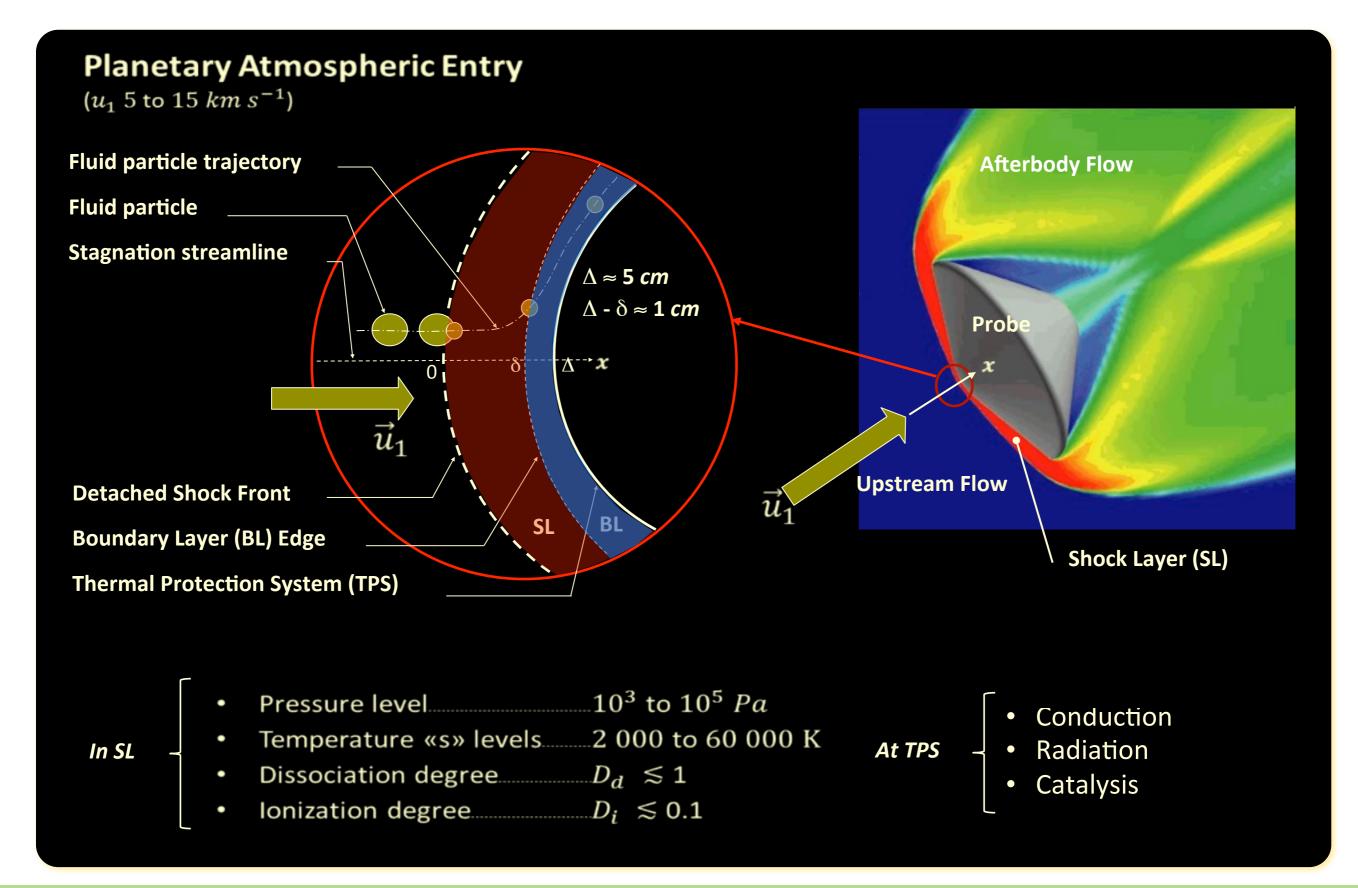


はやぶさ大気圏突入イメージ図



MPCV (有人地球帰還カプセル)

大気圏突入問題の代表スケール



内部励起分布の解析モデル

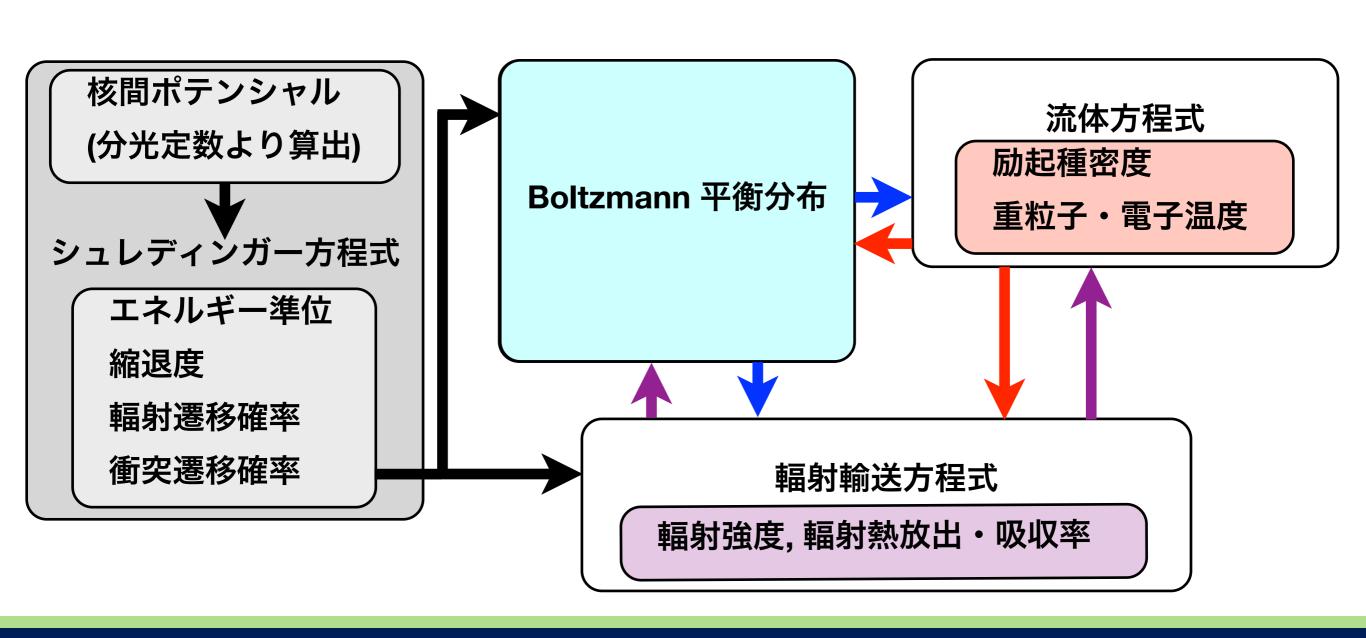
- ☆ プラズマ内部状態に局所熱平衡 (LTE) を仮定する従来手法
 - 分子間衝突による励起・脱励起と光子の吸収・放出が平衡
 - 電子励起などの内部自由度に Boltzmann 分布を仮定
 - 温度,密度のみで内部状態を記述する従来のLTE計算
- ☆ 励起分布の非平衡性を考慮する必要のある場合 (流れ場の代表時間と衝突過程, 輻射過程の代表時間が同程度)
 - 衝突輻射 (Collisional-Radiative: CR) モデルによって 励起分布を直接計算
 - 温度,密度に加え,励起分布をもとに内部状態を決定
 - 輻射と流れ場の相互作用をより正確に評価

励起非平衡プラズマ流の計算コード

- ☆ 非平衡励起分布を考慮した極超音速流コードの例
 - NEQAIR: NS eqs., Line-by-line 輻射輸送 with QSS (C. Park, 1985~)
 - SPARTAN: Line-by-line 輻射輸送 with QSS (M. Lino da Silva, 2004~)
 - Bultel's CR model: 時間依存レート方程式計算 (A. Bultel, 2006)
 - Bultel's CR model: 定常1次元Euler計算 with 1D輻射輸送 (B. Lopez, 2014)
 - COOLFluiD: 定常2次元NS計算 with Bultel's model (M. Panesi, 2014)
- **☆** 他の惑星用の計算コード開発も進められている
- **☆** レーザーやマイクロ波, 電磁場が誘起する流れ場は想定されていない

研究目的

- ☆ 衝突輻射モデルと流れ場, 輻射熱輸送の結合手法の構築
 - テスト問題として,地球大気圏突入問題を想定
 - 衝撃層内における励起分布の非平衡性を調査
 - 突入機壁面への輻射熱輸送計算



原子・分子の電子励起モデル

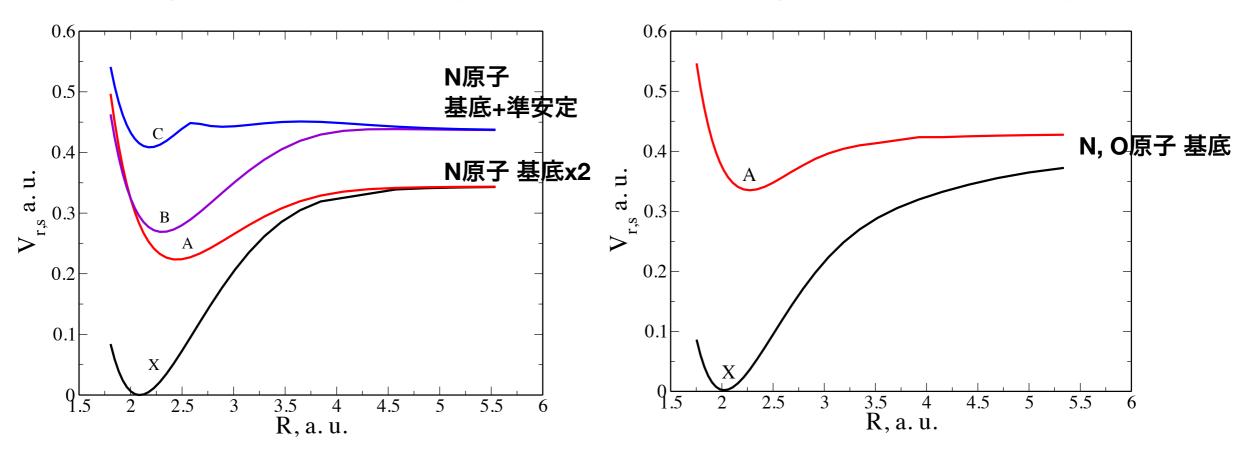
- ☆ 11 化学種 e, N, N+, O, O+, N₂, N₂+, NO, NO+, O₂, O₂+
- ☆ 原子化学種 184 状態, 分子化学種 35 状態の計 219 励起状態

Index	Species	Electronic state representation
$\overline{1 \rightarrow 49}$	N	$2p^3 {}^4S^*, {}^2D^*, {}^2P^*,, 2p^2({}^3P)9s$
$50 \rightarrow 95$	N^+	$2p^2$ ³ P, ¹ D, ¹ S,, $2p(^2P^*)6f$
$96 \rightarrow 135$	O	$2p^4 \ ^3P, \ ^1D, \ ^1S,, \ 2p^3(^4S^*)10d$
$136 \rightarrow 184$	O_{+}	$2p^3 {}^4S^*, {}^2D^*, {}^2P^*,, 2p^2({}^3P)7p$
$185 \rightarrow 194$	N_2	$X^{1}\Sigma_{q}^{+}, A^{3}\Sigma_{u}^{+}, B^{3}\Pi_{g}, C^{3}\Pi_{u}, b^{1}\Pi_{u}, b^{'1}\Sigma_{u}^{+}, c_{3}^{1}\Pi_{u}, c^{'1}\Sigma_{u}^{+}, o_{3}^{1}\Pi_{u}, e^{'1}\Sigma_{u}^{+}$
$195 \rightarrow 198$	N_2^+	$X^{2}\Sigma_{u}^{+}, A^{2}\Pi_{u}, B^{2}\Sigma_{u}^{+}, C^{2}\Sigma_{u}^{+}$
$199 \rightarrow 205$	NO	$X^2\Pi$, $A^2\Sigma^+$, $B^2\Pi$, $C^2\Pi$, $D^2\Sigma^+$, $B^{\prime 2}\Delta$, $F^2\Delta$
$206 \rightarrow 210$	NO^+	$X^{1}\Sigma^{+}$, $a^{3}\Sigma^{+}$, $b^{3}\Pi$, $b^{1}\Sigma^{-}$, $A^{1}\Pi$
$211 \rightarrow 215$	O_2	$X^{3}\Sigma_{g}^{-}$, $a^{1}\Delta_{g}$, $b^{1}\Sigma_{g}^{+}$, $A^{3}\Sigma_{u}^{+}$, $B^{3}\Sigma_{u}^{-}$
$216 \rightarrow 219$	O_2^+	$\mathbf{X}^2\Pi_g^{g}, \mathbf{a}^4\Pi_u, \mathbf{A}^2\Pi_u, \mathbf{b}^4\Sigma_g^{-1}$

分子の励起状態とスペクトル

N2 核間ポテンシャル曲線

NO+ 核間ポテンシャル曲線



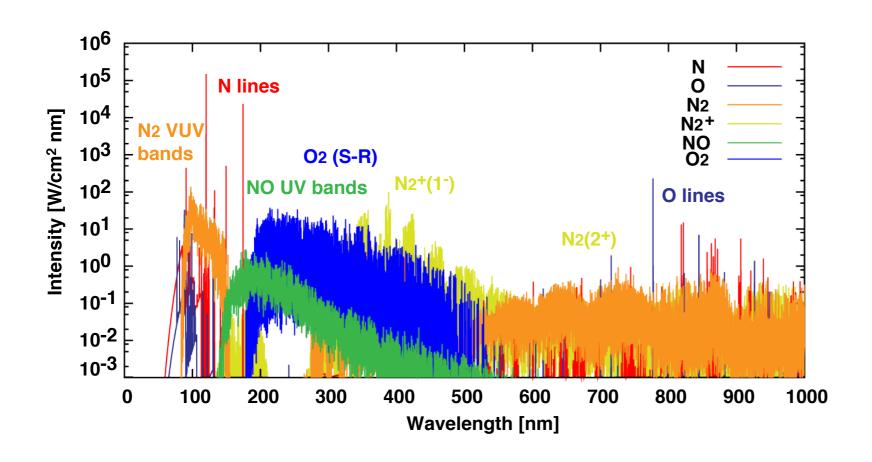
- ☆ ポテンシャル曲線をもとに,電子励起・振動・回転量子状態を算出
- ☆ 電子励起・振動・回転状態間の衝突輻射遷移を計算
- ☆ 振動・回転準位差が小さいため,帯状の発光スペクトル
- ☆ 遷移確率とEOSの整合性をとるために, 分配関数も同一ポテンシャル

CR モデルの支配方程式

☆ 遷移レート方程式 (数密度の保存式)

$$\frac{dN_{s,i}}{dt} = \sum \text{populating processes} - \sum \text{depopulating processes}$$

- ☆ 衝突過程: 衝突励起・脱励起, 衝突電離/解離・再結合, その他の化学反応
- ☆ 輻射過程: 線放射・吸収, 輻射再結合・光電離, 誘導放射



輻射過程のテスト計算結果

• 数密度: 10¹⁶/cm³

• 温度: 8,000 K

CR モデルと流体方程式の結合関係 (拡散項は略記)

全質量保存式

$$\frac{\partial \rho}{\partial t} + \frac{\partial (\rho u^j)}{\partial x^j} = 0$$

s 化学種 i 状態の密度保存式 (レート方程式)

$$\frac{\partial \rho_{s,i}}{\partial t} + \frac{\partial (\rho_{s,i} u^j)}{\partial x^j} = W_{\rm CR}$$

運動量保存式

$$\frac{\partial(\rho u^j)}{\partial t} + \frac{\partial(\rho u^k u^j + p\delta^{kj})}{\partial x^j} = 0$$

全エネルギー保存式

$$\frac{\partial \left[\rho(e+\frac{1}{2}u^2)\right]}{\partial t} + \frac{\partial \left[\left(\rho(e+\frac{1}{2}u^2)+p\right)u^j\right]}{\partial x^j} = -Q_{\text{rad}}$$

振動・電子励起・自由電子エネルギー保存式

動・電子励起・自由電子エネルギー保存式
$$\frac{\partial [\rho(e_{\mathrm{vib}} + e_{\mathrm{ext}} + e_{\mathrm{elc}})]}{\partial t} + \frac{\partial [\rho u^{j}(e_{\mathrm{vib}} + e_{\mathrm{ext}} + e_{\mathrm{elc}})]}{\partial x^{j}} = Q_{\mathrm{t-e}} + Q_{\mathrm{t-v}} \\ -Q_{\mathrm{dis}} - Q_{\mathrm{inz}} - Q_{\mathrm{rad}}$$

輻射熱輸送の結合と計算法

- ☆ CR 流体から密度・温度・励起分布を参照
- ☆ 流体へは熱流束, CRへは輻射強度を還元
- ☆ 立体角積分は壁面垂直方向に一次元近似
- ☆ 300,000 波長点, 波長域 100 -- 1,500 nm
- ☆ 線輪郭は Voigt profile

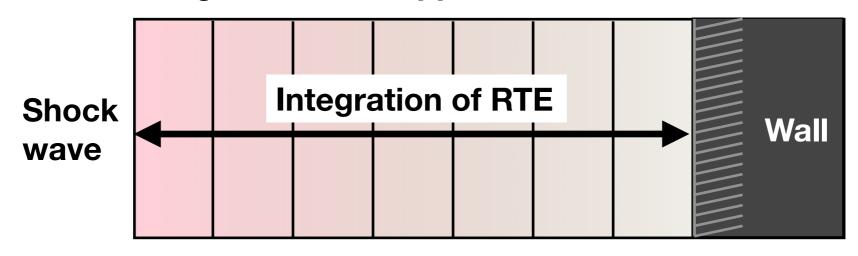
輻射輸送方程式

$$\frac{dI_{\nu}(x,t)}{dx} = \varepsilon_{\nu} - \kappa_{\nu} I_{\nu}$$

CR 遷移レート方程式

$$\frac{dN_{s,i}(x,t)}{dt} = -A_{s,i\to j}N_{s,i} + (B_{s,j\to i}N_{s,j} - B_{s,i\to j}N_{s,i})I_{\nu}(x,t) + \cdot$$

Tangent-slab 1D approximation



数值計算法

- ☆ 軸対称 Navier-Stokes 方程式
- ☆ CR 遷移レート方程式との結合
 - 流体の質量保存式・エネルギー保存式の生成項
 - LSODE (Stiff 多段階陰解法) 時間積分
 - 励起分布の移流
- ☆ 接平板近似による輻射輸送計算
- ☆ 有限体積法による離散化
- ★ SLAU scheme with MUSCL approach
- ☆ MPI ライブラリによる並列化

計算条件(試験機の高マッハ数・低密度条件)

☆ 主流条件

- velocity: 11.31 km/sec

- density: 8.57E-5 kg/m3

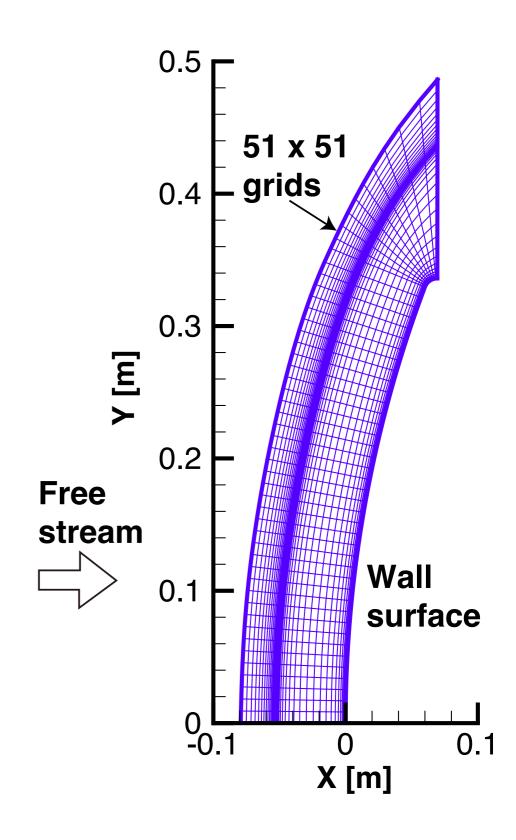
- temperature: 210 K

☆ 壁面条件

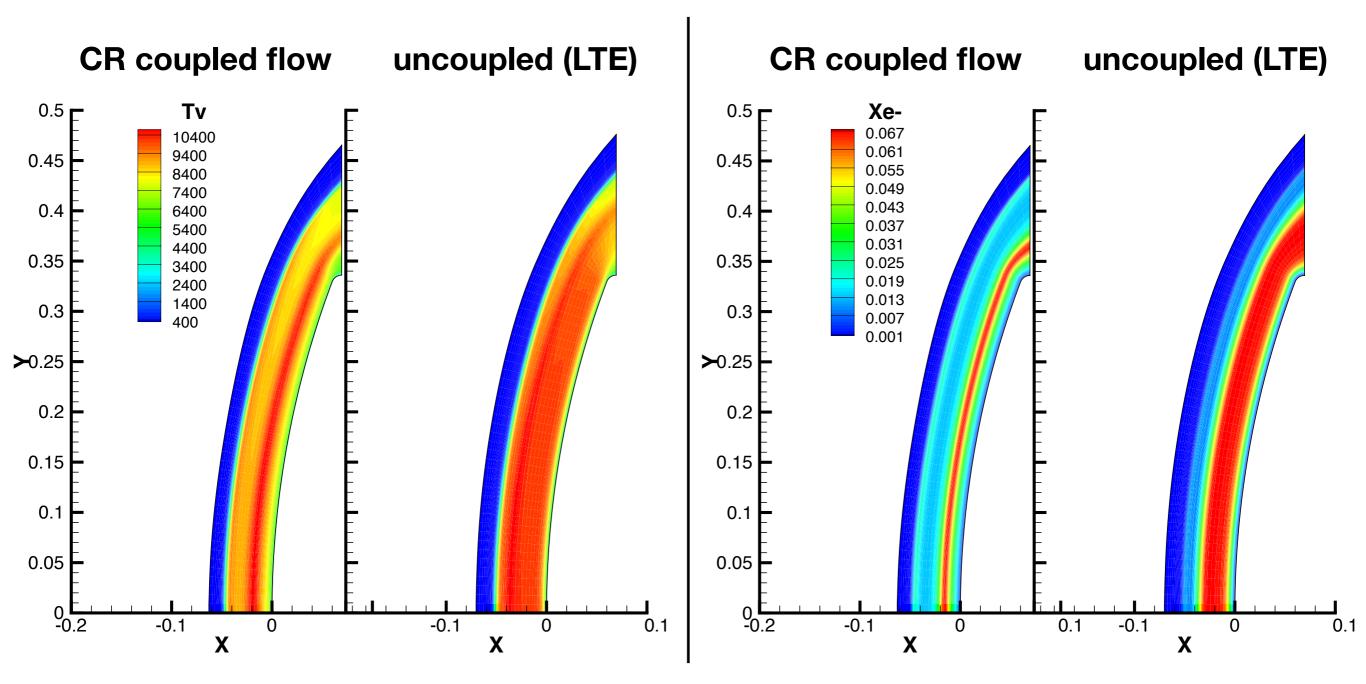
- fully-catalytic wall
- temperature: 810 K

☆ 解適合格子

- 51 x 51 grid points
- minimum grid width for BL: 1.6E-6 m (convective heat flux is converged)



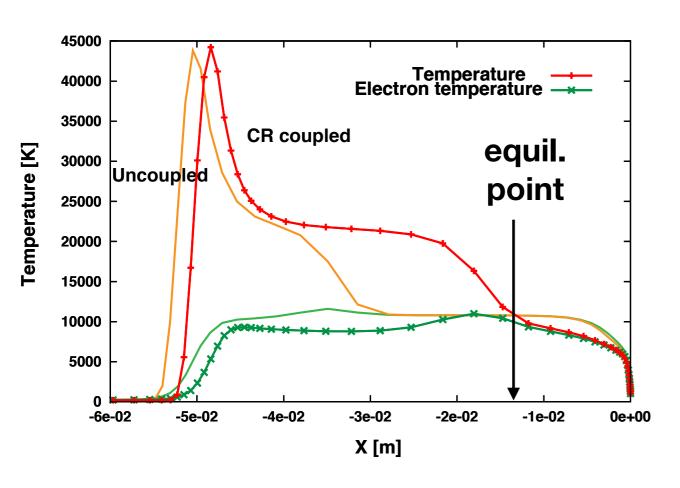
振動温度・電子モル分率分布の比較



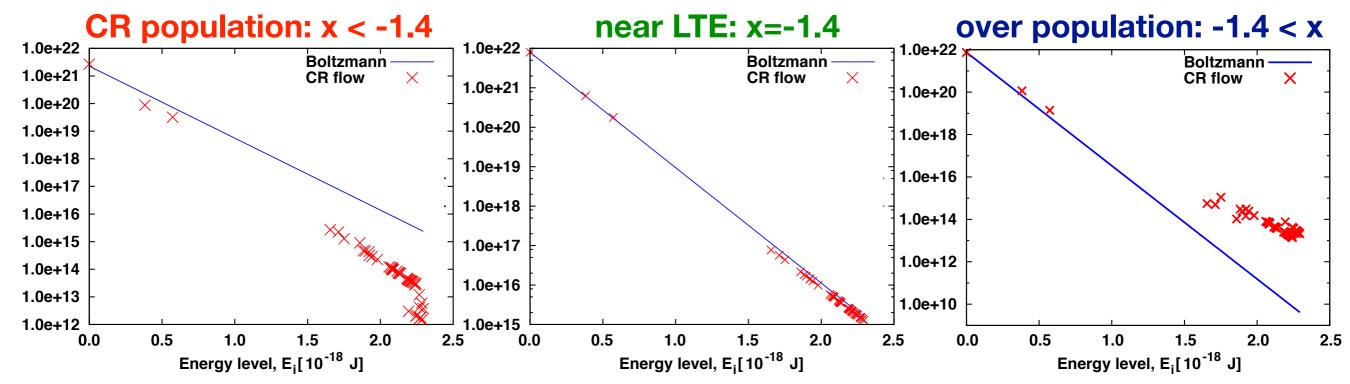
☆ 温度・密度のピーク位置が壁面方向へシフトする

☆ 自由電子が関与する遷移反応によって,プラズマ域の成長が遅れる

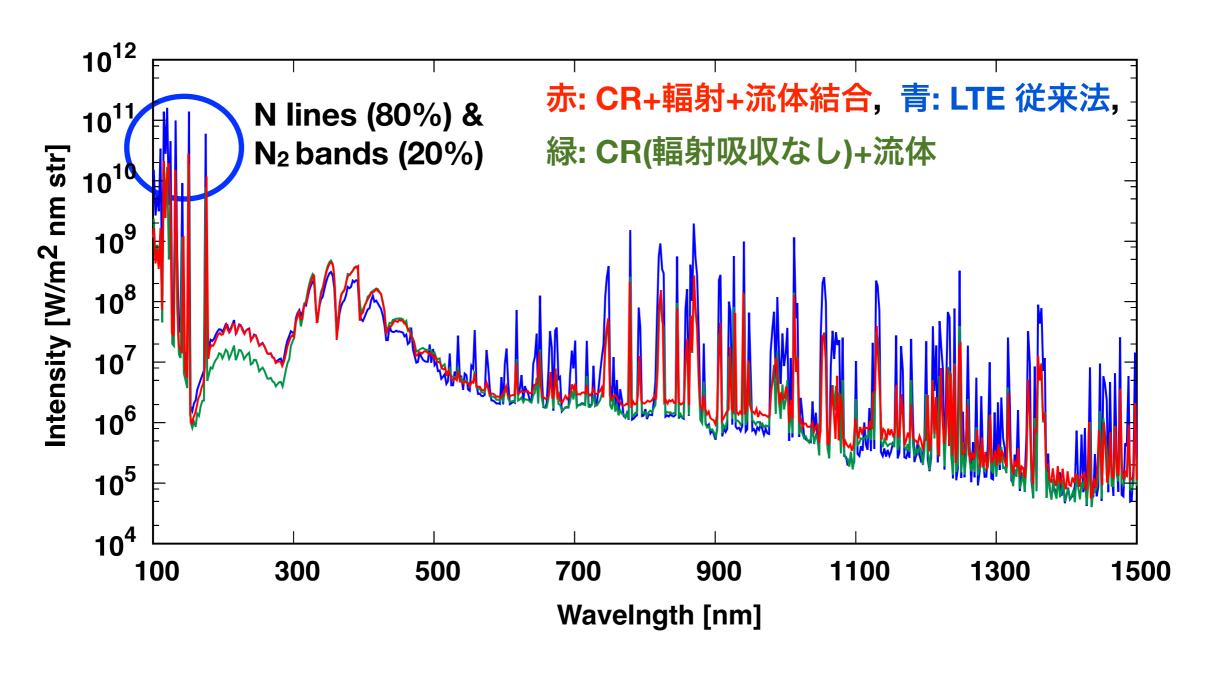
電子励起分布の非平衡性



- ☆ 衝撃波離脱距離が短くなる
- ☆ 座標 x=-1.4 [m] で熱平衡に達する
- ☆ 励起分布の特徴が領域ごとに異なる
 - CR: 衝撃波から平衡点 (x=-1.4)
 - LTE: 平衡点付近
 - over population: 平衡点から壁面



壁面入射スペクトルの励起分布依存性



- ☆ 波長積分値は CR: LTE: CR(abs) = 1:8:2.5
- ☆ 主な差異は真空紫外のN原子系の輻射放出
- 🙀 LTE従来法は過大評価と言える

まとめと今後の予定

☆ まとめ

- CR 流体輻射結合コードを構築した
- 輻射輸送を計算し,壁面加熱スペクトルを調査

☆ 今後の予定

- (CR 流体計算) x (輻射輸送計算) = 100 並列 2 週間程度
- 分光実験とのスペクトル比較による遷移レートの調査
- 空気プラズマを非接触で解析可能な数値分光ツールの提案